

胴割米の発生に注意しましょう！！

長野米生産販売対策協議会
長野県農政部農業技術課

梅雨明け以降高温が続き、胴割米が発生しやすい気象状況となっています。今後も高温が続くと予想されるため、品質低下要因となる胴割米が多発する恐れがあります。長野米の高い品質を確保するため、胴割米発生防止対策の徹底を図りましょう。

胴割米は最も嫌われます・・・。

精米時に粒が砕け精米歩留まりが著しく低下する（流通上うまみのない米）。

炊飯時に粒がくずれ食味低下の大きな原因となる（食味のまずい米）。

1等米になっても市場からのクレームが多く販売競争力が低下する（売れ残る米）。

1. 本年の生育状況

(1) 農業試験場（須坂市）の出穂状況 5月20日中苗田植

	本年出穂期	平年出穂期	平年比	昨年比
コシヒカリ	8月 4日	8月 8日	4日早い	5日早い
あきたこまち	7月 28日	8月 1日	4日早い	4日早い

(2) 松本地域における出穂状況と収穫開始予測日（今後高温に経過した場合）

安曇野市豊科 5月15日稚苗田植

	本年出穂期	昨年比	刈始予測日	昨年比
コシヒカリ	8月 6日	6日早い	9月 12日	8日早い
あきたこまち	7月 27日	4日早い	9月 1日	8日早い

2. 発生防止対策

- (1) 水稻の生育は進んでおり、出穂期は平年より4～5日早まっていることから、今後高温に経過した場合、成熟期も7日程度進むことが予想されるため、ライスセンター等の収穫乾燥施設の稼働計画やコンバイン等収穫機械の準備は早めに行う。
- (2) 登熟積算気温による高温に経過した場合の収穫適期予測や帯緑色籾歩合により、成熟期予測を確実に実施する。
- (3) 出穂以降は極端な土壤乾燥を避け、土壤水分を保持して根の老化防止と健全な登熟に留意する。特に登熟前半は田面が乾くことがないように、足跡に水が残る程度まで減水してきたら、速やかに入水する。なお、日中に葉がロールするような状態となると確実に減収となり、胴割れ米や白未熟粒など品質低下が発生する。
- (4) 帯緑色籾歩合を確認し、やや早めに収穫を開始して、適期内に刈り取りを終了させ、刈り遅れないようする。登熟期が高温の場合など、茎葉の黄化が伴わないことがあるので、必ず籾の状態を調べて収穫を開始する。
- (5) 収穫後はすみやかに乾燥機に張り込む。また、高温乾燥は避け水分が18%程度になったら乾燥を一時休止し調湿させ、仕上げ乾燥を行う。
- (6) 乾燥は14.5%を目標水分とし、こまめに水分チェックを行う。